

経営比較分析表（令和4年度決算）

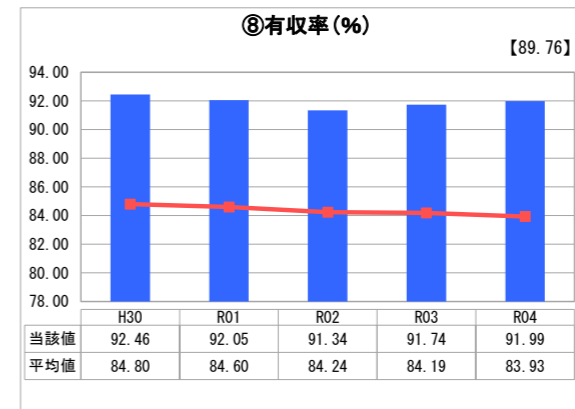
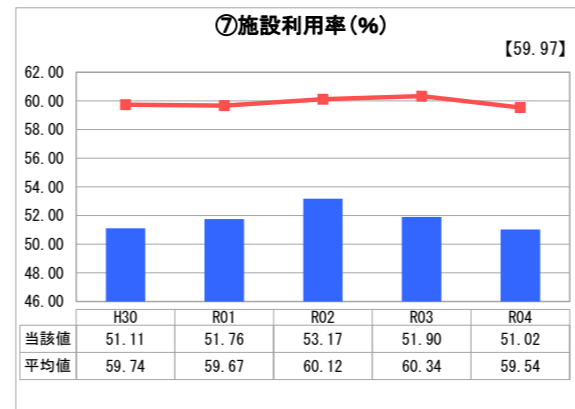
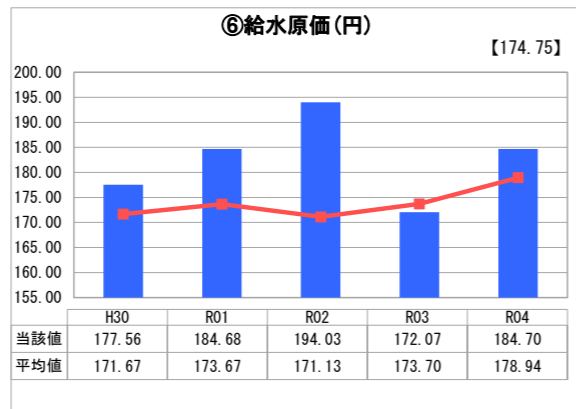
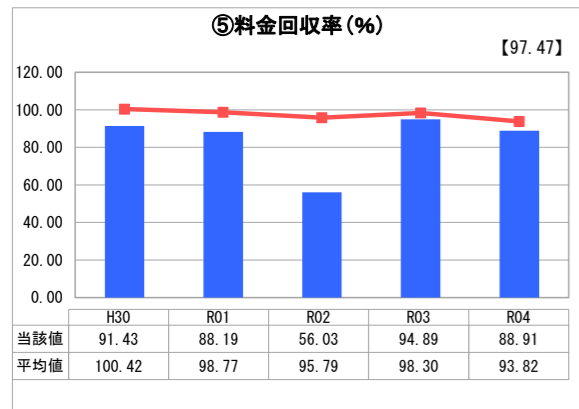
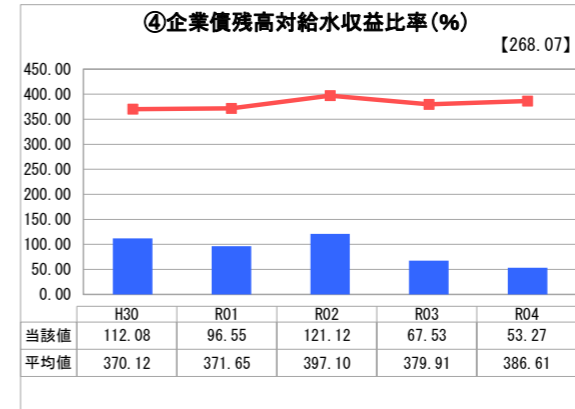
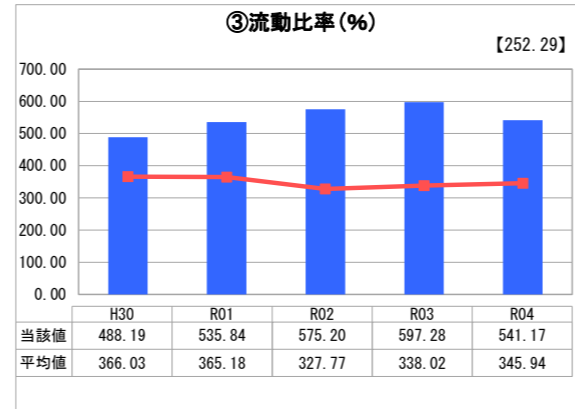
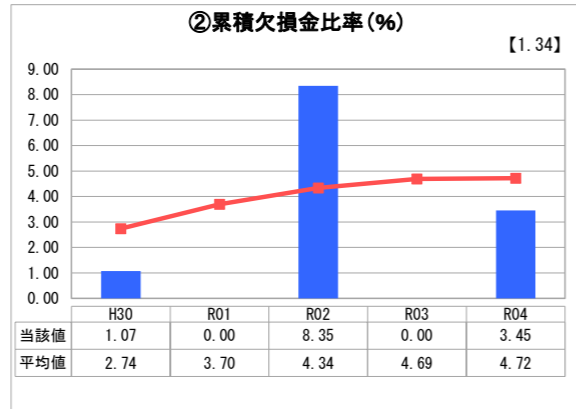
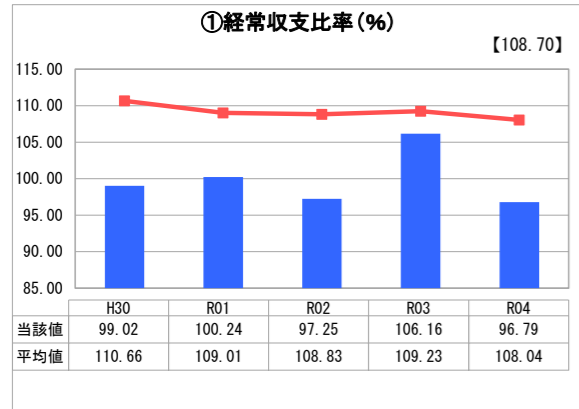
岡山県 浅口市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	90.98	98.03	3,170	

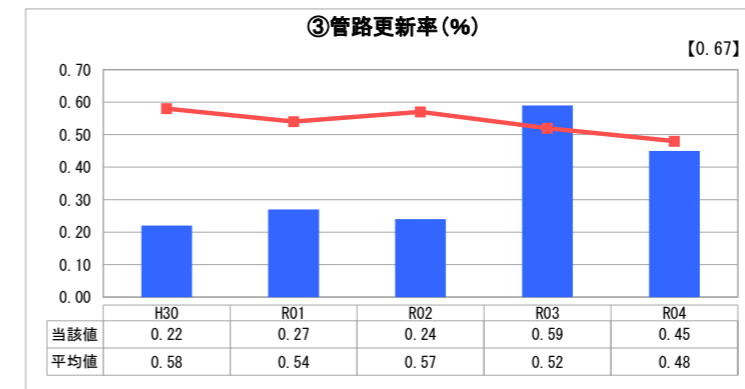
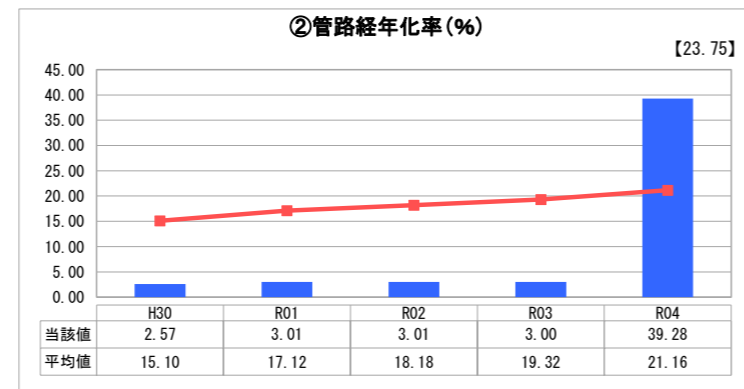
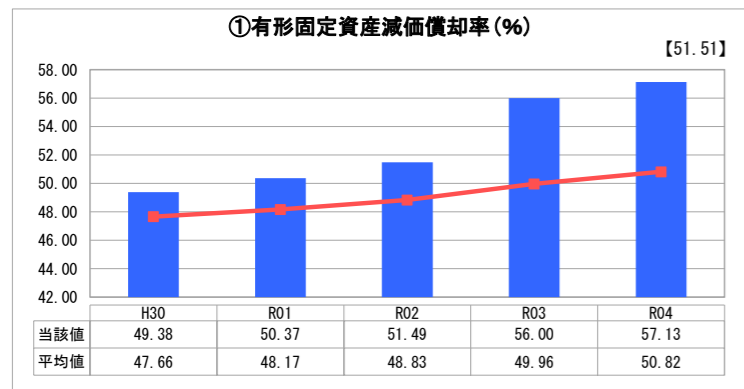
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,382	66.46	502.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,578	47.38	687.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度においては、経常収支比率が100%を割り込み、単年度収支は赤字であり、累積欠損金も発生しているため、料金改定も含め、収入の安定確保、一層の費用の削減に努める等、経営の健全化に向けた改善に取り組む必要がある。

流動比率は基準となる100%を上回っている。現時点では、将来的に、流動資産の減少傾向や流動負債の増加傾向は見込まれない。

企業債残高対給水収益比率は類似団体と比較して低い状況であるが、これは、近年、主に下水道工事等に伴う配水管移設工事を補償費を財源として行っており、合併以後、企業債の起債をしていないことが大きな要因である。

料金回収率は基準の100%を下回っており、類似団体平均値よりも低い状況である。また、給水原価は類似団体平均値を上回っている。これは、事業に係る経費が給水収益により賄われていないこと示しており、受水費等の経常経費の増加等の要因を分析するとともに、適正な料金体系を検討していく必要がある。

施設利用率は、類似団体平均値を下回っており、50%程度となっている。今後、施設更新時に給水量による施設能力の最適化やダウンサイジング等の検討が必要である。

有収率は類似団体平均値を上回っており、前年度と同水準を維持している。漏水調査の実施や市民の通報により発見した漏水箇所の早期修繕などの取り組みを継続し、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、年々増加し、平均値を上回っており、固定資産の老朽化が進んでいることが読み取れる。管路経年化率の令和4年度の急伸は、アセットマネジメントを実施した結果であるが、平均値を上回っており、ここでも老朽化が進んでいることが読み取れるが、管路更新率は毎年1%以下であり、管路の更新はあまり進んでいない。

今後はアセットマネジメントの結果を基に重要度、優先度を考慮した計画的な更新を進めていく。

全体総括

将来的な人口減少に伴う給水収益の減少や施設の老朽化に伴う更新費用の増加に見合う財源を確保するため、安定的な事業運営が可能な料金体系の検討を行うとともに、中長期的財政収支に基づく施設の更新計画を立て、確実に実行する必要がある。令和3年度においては、会計制度の見直し、令和4年度においてはアセットマネジメント、浅口市全体の適正な水運用についての検討を行った。

今後も業務改善により費用の抑制を図るとともに、限られた予算の中で最大の効果が出るよう計画的な更新を実施し、併せて、安定的な事業継続に必要な収入確保のための料金改定を行い、効率的な経営を進めていく。